

白浜レスキューネットワーク通信 1月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&FAX0739-43-8981

<http://www.aikis.or.jp/~fujivabu/nrsv1.htm>

e-mail yabiumi@yahoo.co.jp

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク
 紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人
 白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

1月1日～1月31日

電話件数 96件

保護件数 8件、9人(男性6人、女性3人)

帰宅件数 4件、4人(男性1人、女性3人)

○8日、三段壁から電話を受け、男性2名を保護した。2人は友人で、かつて同じ職場で働いていた。2人とも生活に困り、白浜に来た。相談の結果、共同生活に加わり、自立を目指すことになった。

○同日、タクシーの運転手が女性を1人連れてきた。家族、特に娘との関係に難しさを覚え、家を出、三段壁を目指してきた女性だった。話をする中で落ち着き、翌日帰宅した。

○21日以前ここから自立し、バスの運転手をしていた男性が戻ってくるようになった。その男性は、この2年仕事を真面目にしていたが、どうしてもパチンコとお酒をやめることが出来ず、つけがたまり家賃が払えない状況に陥っていた。戻ってくるようにと話をしていた矢先、仕事を無断で欠勤、行方がわからなくなった。職場の上司と相談し、14日に搜索願を出した。21日にアパートに戻っている所に遭遇、保護した。もう一度一からやり直すことになった。

○23日、十代の男性を保護した。以前他の兄弟を預かっていたことがあった。家に戻ることに難しさがあり、共同生活に加わり、自立を目指すことになった。

○25日、二十代の男性が訪ねてきた。仕事上の人間関係で悩んでいた。いつものように出勤するためスーツ姿で家を出たが、仕事場に行かずに白浜に来た。話をしている中で落ち着き翌日帰宅した。

○27日他県に住む女性から電話を受けた。イン

ターネットで知り合った白浜町の女性が、今困っているので助けてほしいという内容だった。家に入れず、コンビニの駐車場にいと連絡を受け、保護に向かった。娘との関係で悩みを抱えていた。話をしている中で落ち着きその日に帰宅した。

○28日朝、女性から相談の電話を受けた。いてもたってもいられないんだ、とにかくそちらにいてもいいか、と切羽詰まった様子だった。近所との人間関係で20年近く悩んでいた。話をしている中で落ち着き、翌日帰宅した。

○30日、三重県の男性から相談電話を受けた。家に帰れない、所持金は600円、しばらく車中泊していたがガソリンも底をつきそうだと。どうにか白浜に来る手段はないかと考えた末、市役所に車を預かってもらえないかと相談した。その結果ガソリン代を貸与して頂き、男性は車で白浜に来た。真夜中に男性を保護。共同生活に加わるようになった。

生活自立支援活動

1月1日～1月31日

滞在者数 19人(男性18人、女性1人)

自立 2件、3名

○警備会社で働いている50代の男性は、アパートに引越しをした。しかし喜びもつかの間、22日、咳が止まらず病院に行くと心不全と診断され、即日入院した。

○今月初めに保護された男性2名は、白浜で就職活動を始めていた時、派遣会社をしている友人から誘われ、12日2人とも和歌山に向かった。その後無事就職をしたと連絡があった。

○引きこもりの生活が長かった30代の男性は、5日に実家から帰ってくると約束をしたが守らず、実家でも2度飛び出しては帰ってくるとい

うことを繰り返した。22日両親とともに来て、今後の相談をした。また白浜で頑張る決心をし、近くの作業所に通い始めた。共同生活の仲間に受け入れられた、ゆるされたことへの感謝を口にするようになった。

○沖縄から来た発達障害を抱える男性は、就職活動に励み、3つの仕事を掛け持ちながら頑張っている。

○新聞配達をしている男性は、朝刊も配り始めた。

○先月保護された60代の女性は、17日に生活保護が決まった。以前住んでいたアパートの片づけも終わることが出来た。

○今月保護された10代の男性は、近くの飲食店に就職が決まり、働き始めた。メニューを必死で覚え、よく頑張っている。

自殺予防活動

・放課後クラブ・コペルくん

開催日数16日、延べ人数115人(内中学生42人)

小学校でインフルエンザが流行し、めまぐるしい一か月だった。ある子はインフルエンザにかかり、治ったと思ったら学級閉鎖でお休み。ある子は学級閉鎖が終わってからインフルエンザにかかりお休み、となかなか全員そろわなかった。今は元気にみんなが顔を見せてくれるのが嬉しい。



毎週水曜日は手作りおやつの日と決

め、今月もいろんなものに挑戦した。写真はホットドック。

中学1年生の男子が、国語の授業で毎週行われる漢字の小テストに目覚め、よく勉強するようになった。家にある自分の勉強机を整理し、

家でも勉強するようになった。「今日は地震が起こるわ!」と、学校の先生や親にほめられるのが嬉しいようで、毎回報告してくれる。

受験生の2人も英語を中心に勉強に励んでいる。

はじめ人間自然塾 うどん屋



1月11日(土)うどん屋をした。小麦粉、水、塩を量ってこね、足で踏んで、伸ばして、包丁で切るところまで全部子ども達と手作りした。15名の小学生が参加。全員のうどんがゆであがった頃には2時を回っていた。「こんな時間までお昼ごはん食べなかったことない…」とペコペコのおなかに美味いうどんだった。



・相談電話

1、8、15、22、25日に毎週休まず行った。特定の人が、待ちわびたようにかけてきている。

・まちなかキッチン

今月は2381個のお弁当を販売した。毎日4件のお宅に無料で惣菜を提供することができた。今月から店舗でFM放送を聞けるようにした。地元の情報発信できる場所にしていきたい。

・今後の講演予定

2月7日：民生委員来白

2月12日：和歌山工業高校で講演

2月22日：有田川町で講演

3月11日：泉大津市で講演

3月15日：大阪司法書士会で講演

3月21日：キリスト教福祉学会分科会で発表

5月17日：和歌山いのちの電話講座